

目次

[第1章 序 論]

- Q 1 「茶どころ日本一計画」って何ですか？…………… 1
- Q 2 計画のサブタイトルにある“お茶のまち100年構想”って何ですか？ …… 1
- Q 3 この計画の構成はどのようになっているのですか？…………… 2
- Q 4 どうして「茶どころ日本一計画」ができたのですか？…………… 3

[第2章 基本構想]

- Q 5 今、なぜ百年も先を目標とした長期構想が必要なのですか？…………… 4
- Q 6 「お茶のまちづくり」に向けた大切な考え方とは何ですか？…………… 5
- Q 7 「お茶のまち静岡市」のめざす100年後の姿はどんなまちですか？ …… 6

[第3章 基本計画]

- Q 8 10年後を目標とする基本計画を作るにあたって重視した点は何ですか？… 8
- Q 9 10年後にめざすお茶のまちはどんな姿ですか？…………… 9
- Q 10 10年後の目標は何ですか？…………… 9
- Q 11 10年後の目標像に向けた施策の体系はどのようになっていますか？…………… 10
- Q 12 10年後に目標とする姿を実現するためにどのように取り組んでいくのですか？ …… 11
- Q 13 戦略の具体的な展開イメージはどのようになっていますか？…………… 12
- Q 14 区別にはどのようなお茶のまちづくりを進めるのですか？…………… 13

『お茶のまち静岡市』

静岡市は、全国有数の茶園面積（平成21年 2,440ha）を有する茶産地であるとともに、日本を代表する茶の集散地です。

この地の茶栽培の歴史は古く、鎌倉時代中期の仁治2年（1241年）に葵区柄沢生まれの聖一しょういち国師が中国の宋から帰国したときに持ち帰った茶の種子を、安倍川流域の葵区足久保にまいたのが始まりと言われています。

一方、同じ鎌倉時代、栄西えいせい禅師が中国から持ち帰った種子が、明恵上人みょうえしやうにんによって全国に広められ、その内の一箇所が「駿河きよみの清見」（清水区興津付近）と伝えられています。

このように、古い歴史を持つお茶づくりは、豊かな自然と茶生産者をはじめとする茶業関係者の並々ならぬ尽力により、それぞれ「静岡ほんやま本山茶」、「清水のお茶」として脈々と受け継がれてきました。